

令和2年2月26日

草津市議会議長 瀬川 裕海 様

草津市議会会派 公明党

代表 西村 隆行

研修会「地方議員のためのRESAS活用」への参加について、下記のとおり報告書を提出いたします。

記

1. 期 間 令和2年2月11日（火）

2. 日 程

・地方議員研究会「地方議員のRESAS活用」 場所：新大阪丸ビル別館

2月11日（火） 午前10時から 「基礎編」

午後2時から 「応用編」

3. 参 加 者 公明党 西村 隆行

西垣 和美

4. 添付資料

別紙のとおり

地方議員研究会

「地方議員のためのRESAS活用」

報告書

草津市議会 会派 公明党



日時・講師・会場

○2020年2月11日（火）午前10時～

地方議員研究会

「地方議員のためのRESAS活用：基礎編」

講師：(株)富士通総研 経済研究所 榎並利博氏

○2020年2月11日（火）午後2時～

「地方議員のためのRESAS活用：応用編」

講師：(株)富士通総研 経済研究所 榎並利博氏

○基礎編・応用編ともに新大阪丸ビル別館

目的

○RESAS すなわち、地域経済分析システムという地域に関する官民の様々なデータを搭載し、誰もが分かりやすいように「見える化」したシステムを研修し、データを元にした、説得性と納得性のある、より効果的な施策の立案・実行・検証ができるようになりたいとの目的を持ち、受講しました。

研修内容

○基礎編

I RESAS（地域経済分析システム）の概要

II 人口マップ

2040年におけるあなたの自治体は？

- ・2040年の人口構成は？
- ・2040年の人口は？
※合計特殊出生率が現状のままという前提で
- ・その時の老年人口の比率は？
- ・生産年齢人口は現在と比べてどのくらいになるか？

III 地方財政マップ

- ・あなたの自治体の財政指標は？
 - ・財政力指数
 - ・経常収支比率
 - ・実質公債費比率
- ・あなたの自治体の一人当たりの地方税額は？
 - ・都道府県内で何位？
 - ・近隣の2～3自治体と比較すると？

IV 雇用/医療・福祉マップ

【党道府県単位】

- ・あなたの都道府県における一人当たり賃金は？
- ・医療・福祉分野の賃金は？
- ・あなたの都道府県における有効求人倍率は？また、その推移は？
- ・あなたの都道府県における求職者の職業は？また、求職と求人とのミスマッチの状況があるか？
- ・人口10万人あたりの内科病院の数は？
- ・あなたの自治体における要介護5の認定者数は？

V 分析の視点

1 地方議員としての分析の視点

- ・あなたの地域の持続可能性は？
 - ・人口の構成、人口の推移、自然・社会増減など
- ・あなたの自治体の経営状況に問題はないか？
 - ・財政力指数、経常収支比率、将来負担比率など
- ・あなたの地域の課題とは？

- ・雇用環境、医療・介護など社会保障環境
- ・課題解決のためにすべきことは？
- ・地域の将来のためにすべきことは？
 - ・産業政策、企業活動、観光、まちづくりなど

○応用編

I RESAS活用事例と議員の役割

1. RESAS活用事例

- ①八戸市の地域経済循環分析：新たな施策の立案
- ②豊岡市の施策検証型分析：海外への活路を見出す

2. 議員の役割とは：RESASを活用して

- ・自分の地域（自治体）はこの先どうなるのか？
 - 将来に対する危機感を市民と共有
 - ・地域（自治体）における課題とは何か？
 - 課題認識についての対話
 - 市民、行政、企業・事業者、その他
 - ・どのような解決策があるか？
 - 関係者を巻き込んだ議論
- これらについて、データに基づいて行うことに意味がある。

II 地域経済循環マップ

1. 地域経済循環マップの構造
2. 地域経済循環マップを使う

■地域経済循環図

あなたの自治体における地域経済循環は？

- ・地域経済循環率は？

※生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。（値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。）

【地域経済循環率】

- ・東京都 23 区 185.1% ・狛江市 42.3% ・府中市 94.4%

III 産業構造マップ

1. 産業構造マップの構造
2. 全産業：全産業の構造
3. 製造業：製造業の構造
4. 小売・卸売業（消費）：From-to-分析

- 5. 農業：農地分析
- IV 企業活動マップ
 - 1. 企業活動マップの構造
 - 2. 海外取引：海外への企業進出動向：農業・林業
 - 3. 研究開発：研究開発費の比較：製造業
- V 観光マップ
 - 1. 観光マップの構造
 - 2. 国内：目的地分析：北海道
 - 3. 外国人：外国人訪問分析：岩手県
- VI まちづくりマップ
 - 1. まちづくりマップの構造
 - 2. **From-to** 分析（滞在人口）
 - 3. 滞在人口率
 - 4. 通勤通学人口（地域間流動）
 - 5. 流動人口メッシュ
 - 6. 事業所立地動向：産業別推移
 - 7. 施設周辺人口：図書館から 500m
 - 8. 不動産取引：土地（商業地）
- VII その他のツール
 - 1. 地域特性の発見 **EvaCva-sustainable**
 - 2. **MyCityForecast**
 - 3. 未来カルテ

所感

日本は、少子高齢化というこれまで経験したことの無い、時代にあり、地方創生の国の掛け声の中、地方創生の戦略的な計画を策定したが、全国的にみて地方創生が成功したという事例が少ないと思えます。

今後、ますます地方が持続可能な地域を作っていくためには、地域経済の持続可能性に視点を持っていかなければならないと日頃から考えていました。

そのような中、今回の研修を受けて、行政からの各施策の説明時に、その施策の根拠となっている状況や動向等を教えていただくが、この **RESAS** を勉強して使い方を習得すれば、それぞれのデータに基づいた情報で、それぞれの施策に対して質問・指摘ができると確信しました。

また、今研修でいただいた「草津市未来カルテ」を見てみると、現在の草津市の傾向が継続した場合、2040年に草津市の総人口は全国が2015年と比較して87.3%と減少するが、なんと105.7%に増加すると予想されていました。た

だ、65歳以上人口比が全国の117.0%に比べ152.3%と大幅に増加するとの予想であります。

このことをどう捉えていくのか。高齢化が進んでいくのでマイナスと捉えるのか、定年制の延長等で今話題とされている高齢者の就労意欲をどう推進していくのか、非常に大事な局面を迎えていると思います。

それゆえ10年という単位で考えていく「総合計画」に対して、2040年を見据えながら、RESASに基づく市の動向を確認しながら、次の10年を計画していく事が必要と確信しました。

参 考：RESAS ホームページ <https://resas.go.jp>

添付資料：「草津市未来カルテ」